

野本 京俳句（句集以後自選百句）2026編

句集『わたしがゐてもゐなくても』以後

藤田湘子選「鷹」掲載句より自選百句

H 2／6月号～H 17／2月号

夜遊の蛤汁にはじまれり	H 2／6月号	
白魚のわが体内に果つるかな		7
水を打つしまひはいつも沖を見て		9
泪目にゴッホの画きし星月夜		1 2
夜が来て菊人形の病むにほひ		
闇汁や吾を逃ぐるもの逃がしやる		3 1
くらやみに狂はずにゐる鏡餅		3
軽暖の墓をめぐりて誰もゐず		5
石楠花にしやくなげいろの雫あり		8
逃亡の吾を容れしめず罌粟畑		9
夏至の月サロメの舞を汝に与ふ		
あの山に今灼けゐたる汝の墓		1 0
菊人形恋の修羅場をかぐはしく		1 1
なまぐさき蒲団なりけり紅葉宿		4 1
かくれなき遍路装束枯山に		2
温室 <small>むろ</small> しづく受けてわたしは何の花		3
紅唇や鬱てらてらと皮コート		4
踏切の向かうは黄泉か日の盛		1 0
星ひとつ海にこぼれし月の浜		1 2
教会の聖歌やわれの息足らず		5 3
恋のほかわれかがやかず花辛夷		5



転職か否かカンナの緋なりけり	1	2
草の花摘みつつ帰心ありにけり	9	2
わが墓域摘み放題の蓬かな	7	
髪洗ふまなうらに罌粟咲き乱れ	8	
をらぬひとおもへと月の青葉木菟	1	0
人待てば娼婦のごとし秋の暮	1	0
校庭の冬木少女のわれがゐし	2	
愛すべき人を愛せり冬の草	4	
暖かし父にわが名を呼ばせし	5	
眠れねば眠らず春を逝かせける	8	
喪ごころのなまなまと蛇泳ぐなり	9	
夢いつも叫びてをはる扇風機	1	1
木の瘤の出すこゑあらむ盆の月		
花火の夜殺むるほどは愛すまじ	1	2
くらがりに人待つならひ踊唄		
赤鰾に立ちたるあとは無口なり		
木枯や玻璃一枚の夜のかなた	1	1
寒林やこころゆるびのうすなみだ	4	3
綿虫や何に遊びしわが昔		
禅語ふと大根サラダ噛みにけり		
老のもの干す目出たさよ花辛夷	6	
春愁や小指入れたる耳の虚		
菜食の夜の朧となりにけり		
ぐづぐづとたやすきなみだ霾晦		
蝶荒しこの断崖をわれも発つ		
二楽章始まるごとし春のくれ		
亡きあとに生きてしあれば花疲	7	

- 4 / 4 -